

FREE 岡山ムーブアップ vol.11
NOV 2014

岡山から日本を元気にするフリーペーパー

OKAYAMA MOVE UP

EXILE

岩田剛典

三代目 J Soul Brothers

SPECIAL INTERVIEW -2-

高畑 充希

SPECIAL INTERVIEW -3-

衆議院議員/内閣官房副長官 加藤 勝信

SPECIAL INTERVIEW -4-

山岡 ゆうこ

SPECIAL COLUMN -1-

EXILE TETSUYA

and more...

HEADLINE
WEST

TOKYO
HEADLINE

発行人: 源 真典(株式会社HEADLINE WEST) / 一木 広裕(株式会社ヘッドライン)
〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14 Leeビルディング4F TEL:086-250-8089
編集・製作 株式会社ヘッドライン
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-9-6/バルビゾン3 403号



日本を元気に!

岩田剛典

EXILE、三代目 J Soul Brothers

EXILE、そして三代目 J Soul Brothers のメンバーとして活躍する岩田剛典。10月からは木曜劇場『ディア・シスター』（フジテレビ系、木曜午後10時〜）で、石原さとみの相手役をつとめるなど、その活躍の場を広げている。そんながんちゃんこと岩田が、ドラマにかける意気込み、人生のターニングポイントだったという三代目 J Soul Brothers のオーディション秘話、今後の夢、そして EXILE HIRO や EXILE への思いを率直に語る。
(聞き手・一木広治)

EXILEとしてグループに貢献できる事は何でも挑戦したい

一木 (以下、一) 「今、放送中の連続ドラマ『ディア・シスター』にレギュラー出演していますがいかがですか」

岩田「まだ自分のお芝居を見るのが恥ずかしい部分もありますが、ファンの方が僕に抱いているイメージはものすごく変わるといいますし、新しい一面を見せられる自信はあります。普段EXILEとして活動している時は、服装も髪型もキメキメですが、そういうイメージを全部ぶち壊したいという気持ちがある。役柄もすごく自然体でナチュラルなキャラクターなので、寝起きでそのまま現場に来て、撮ってますみたいな (笑)。役作りも、石原さとみさん演じる主人公美咲の親友という設定なので、女友達みたいに気軽に話ができるという雰囲気を出すために、地声をちょっと高くしてみたり、リアクションを少しだけオーバーにしてみたりするぐらいで、あまり作りこんでいません。逆に、見ていただくみなさんに“これって演じてるの？素なんじゃないの？”って思われるぐらいがいいかなと。実際、プロのスケートボーダーを目指しているっていう部分で、昔の自分と重なるところがある。純粹に夢を追って、自分のやりたいことを突き詰めて仕事にしていきたいという自分がいましたから。大学時代は、新宿の現・損保ジャパンビルで、ずっとダンスの練習をしていました。そこで今EXILEと一緒にやっているNAOKIさんとも会ったんですけど、

ダンスバトルをしながらも、似たメンツが集まっているので、コミュニティが生まれて、一緒にチームを作ったりとかもあったので、役柄と被る部分はあります。まだメンバーにドラマの感想は聞いていませんが、この仕事が決まった時は、三代目J Soul Brothesのみんなが“ヤバイね”とか言ってすごく喜んでくれましたし、EXILEのメンバーも“予告編見たよ”とか言って楽しみにしてくれていたのが、プレッシャーも感じつつ、最後までしっかり演じきりたいと思っています」

一「相手役の石原さとみさんはどう？」

岩「プロ意識の高さにいつも刺激を頂いています。石原さんって、演技をしている時も普段もあのままなんです。テレビで見ていた僕の印象そのままというか。すごく気さくな人で、場も和ませてくれますし、とても素敵な方です。共演させていただいて、すごく助けられてると感じる部分もあり心強いです。ドラマもあと数話ですが、撮影期間中は本当に日々好きになっちゃうぐらいの気合で挑んでいきたいと思います。押忍 (笑)」

一「ところで今年、EXILEに新メンバーとして加入し、夢に一步近づいたと思うのですが、今後の目標は何ですか」

岩「一番大きな夢はスーパースターになりたいっていうことなんですけど (笑)、それはどういうことかとういうと、いつか自分がEXILEを引っ張っていける存在に

なりたいんです。そしてその考えのベースにあるのは、HIROさんに恩返しをしたいという気持ちなんです。HIROさんがきっかけで、この世界に導いていただいたので、HIROさんに最高の恩返しをするために、自分に何ができるのかを常に考えている。その意識を持ってパフォーマンスやお芝居だけにとらわれず、多岐にわたり、その時々でEXILEメンバーとしてグループに貢献できることがあれば、どんなことにでも挑戦していきたいという気持ちは常に持っています。ですから、今は三代目J Soul BrothesとEXILEを兼任していますが、EXILEメンバーになることにより、三代目J Soul Brothesに一般性を持ち帰り、グループの幅を広げられたらいいと思いますし、そんなふうにいるいろんなことをつなげていければいいですね」

一「EXILEメンバーのオーディションの時は大本命だったけど、プレッシャーとかはなかった？」

岩「めちゃめちゃありました。でも逆にそのプレッシャーを超えるためにあえて、三代目J Soul Brothesの『ブルーインパクト』というツアーのMCの時に毎回“EXILEメンバーになります”って公言していました。言いすぎてあとでHIROさんに“あれだけ言われたら、逆に落とせないよ”って冗談交りにいじられましたけど (笑)。でも言うことで自分を追い込んでいたん



撮影・野口卓也



<木湯劇場>『ディア・シスター』
木曜夜10時よりフジテレビ系にて放送中

三代目 J Soul Brothers のパフォーマーに合格して人生が大きく変わった

です。ただ、EXILEになったからというより、本当にHIROさんとLDHに貢献したいという気持ちが根底にあるので、残りの人生を個人としてどう生きるのかという事は常に気持ちの中にあります」

—「じゃ、人生のターニングポイントはEXILEメンバーになった時？」

岩「もちろんそこも含めてターニングポイントは何度かありましたが、大きく人生が変わったということでは、2010年9月18日に、三代目J Soul Brothersのパフォーマーオーディションに合格した時かも知れないです。「ファンタジー」ツアーの神戸スタジアムだったと思うんですけど、リハーサルの時に直接HIROさんから、発表があったんです。“劇団EXILE風組からエリー、山下健二郎、そして一般から岩田剛典”って言われて。もうガチ泣きました(笑)。企業の内定も断って、めっちゃ辛い合宿行ったのに、これに落ちたらフリーターかって思っていて(笑)。周りはみんな企業に就職して働いているのに、俺は何やってるんだって。落ちたら後がないというぐらい追い込まれていたんで、本当に夢が叶った瞬間でしたし、そこからすべてが始まったといってもいいぐらいでした」

—「慶応大学を卒業して、企業まで内定していたのに、パフォーマーになろうと思ったのはなんで？」

岩「きっかけはNAOKIさんです。NAOKIさんとは、大学とか関係なしに、渋谷

と一緒にダンスをやっていたメンバーなんです。もちろん先輩ですが、同じダンスチームを組んでいたり、二代目J Soul Brothersになる前からよく知っていました。だから、二代目J Soul BrothersからEXILEのメンバーになる経過もずって見ていましたし、2009年に初めてNAOKIさんがEXILEとしてパフォーマンスしたライブも見に行きました。その時は“NAOKIさんすごいな”というぐらいしか思っていなくて、自分がそこに行きたいという思いはなかった。そして2010年の初夏にNAOKIさんから電話が入って、新ユニットを作るにあたりパフォーマーを探していると言われたんです。NAOKIさんとNAOTOさんがリーダーで、あとエリーも入るって決まっています、そのまま3人か5人が決まっていなくても、5人になったらあと2人足りないから受けてみない?って。もちろんオーディションですから、ほかにプロダンサーの候補が30人ぐらいいたんですけど、よかつたら挑戦してみないって言うてくれて。最初は、内定をもらっていて、ほかに行くところがあるからって断ったんですけど、それをきっかけに、自分の本当の夢ってなんだろうって思ったんです。就活のためにエントリーシートも100通以上書きましたし、面接も何十社も受けたけど、そういうふうにならなくていい。いまちピンとこない自分がいて…。もちろんダンスが好き過ぎるから、ダンスで飯が食えるなら一番いいだろうなって漠然

と思っはいましたが、バックダンサーだけじゃなかなか生活できないという日本の現状も分かっていましたし。だからダンスは趣味でと自分

の中で割り切っていた部分があったんです。それにNAOKIさんとかを見ていても、ひと握りの人しかそういう世界では輝けないと感じていましたし、自分はその世界に行く人間ではないと無意識に壁を作っていたんです。でもNAOKIさんの言葉はすごく強力な誘惑だった。だから新ユニットという誘いは、暗闇に差した一筋の光というか…。でも内定はもらってたし、前期で単位を取り終わっていたので、旅に出ようと思ってバイトもしてたし、ずっと迷っていたんです。やりたいけど中途半端な気持ちでNAOKIさんの誘いに乗って、途中で辞めますなんて言えない…。真剣に悩みました。結局これが人生の分岐点だなんて思って選んだのが、オーディションを受けるという道でした。まだ25年しか生きていませんが、この5年はほんと波乱万丈で、めっちゃ濃い5年間でした。2010年の夏は一生忘れられないと思います」

—「最後に岡山のファンにメッセージをお願いします」

岩「ライブがあればもちろん行きたいですが、ライブ以外にもラジオとか、行く機会があると思いますので、何かしらのタイミングで岡山にうかがって、ファンの方と直接コミュニケーションがとれるようにしていきたいと思っています。EXILEや三代目J Soul Brothers、そして僕を応援して下さい。僕が大好きな方がたくさんいらっしゃることは感じているので、ぜひ恩返しの意味も込めて直接みなさんに会いに行きたいと思っています。その時は最高のパフォーマンスをお見せします。それまでは、ドラマを見てキュンキュンして下さい(笑)」



一木広治 (ICHIKI KOJI)

株式会社ヘッドライン代表取締役社長 / 二十一世紀倶楽部理事事務局長 / ライオンズ日本財団評議員 / 株式会社LDH エグゼクティブプロデューサー / 株式会社ローソン顧問 / 株式会社モブキャストエグゼクティブプロデューサー / アンファー株式会社顧問 / 東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会事業広報アドバイザー / 淑徳大学人文学科客員教授



岩田剛典'S

POSITIVE ITEM

いつも前向きな岩田剛典の気持ちがアがるポジティブアイテムを紹介

MOVIE

「クールランニング」

黒人の若者たちが雪のない国でボブスレーをやってオリンピックを目指す話なんですけど、相当おバカな映画です(笑)。涙あり、笑いありで、底抜けに明るい映画なので、元気になるにはもってこい



ANIMAL

「犬」

犬が大好き。人懐っこいし、癒されるから。ミニチュアダックスフントを飼っていました。成長しすぎてミニチュアじゃなかったですけど(笑)。犬なら大きいのも小さいのも全部好き。僕もよく犬顔って言われますが、自分でもそう思います。うちの犬に似たのかな(笑)。

COMIC

「テラフォーマーズ」

今単純にハマっている漫画。設定がやばすぎてぶっ飛んでいるんです。火星を人類が住める星にするために、地球上で一番生命力があるゴキブリを20年間火星に放置するという実験が行われた結果、ゴキブリが巨大化して人間みたいになるんです。ゴキブリが人間サイズになると一瞬で200kmのスピードで移動できたり、力も半端なかったりするんですが、それがすごく繁殖していて、人類対ゴキブリの戦いが始まっていく...という話です。実写化されたらぜひ出たいですね。ゴキブリ?じゃなくて駆除する人類のほうで(笑)。



答えて!がんちゃん

読者から寄せられた質問に岩田剛典さんが回答。質問が採用された人には、がんちゃんから名前入りでサインをプレゼント。

Q. 座右の銘、またはモットーは?(質問者:結衣ちゃん)

A.「今となってはなんですけど、“強く願えば夢は叶う”ですね。もちろんそのためには努力が必要で、言葉としても綺麗事のような言葉なんですけど、実際自分が感じていることなので」

Q. 元気の原動力は?(質問者:さとみさん)

A.「応援して下さるみなさんの声とHIROさんへの感謝、そして家族です」

Q. 「岡山」と聞いてイメージするものは?(質問者:みなこさん)

A.「やっぱり桃太郎のイメージ。犬も連れてるし(笑)」

PRESENT

岩田剛典さんのサイン入り色紙を3名にプレゼント!

応募方法などの詳しい内容は「OKAYAMA MOVE UP」公式 facebook ページよりご覧下さい!



OKAYAMA MOVE UP

検索

OKAYAMA MOVE UP
日本を元気に

高畑充希

TAKAHATA MITSUKI

NHK 連続テレビ小説『ごちそうさん』西門希子役や現在放送中の大河ドラマ『軍師官兵衛』黒田長政の妻・糸役で存在感を見せ、『チョーヤ 酔わないウメッシュ』で美しい歌声を披露するなど、いま何かと注目を集めている旬な女優・高畑充希。実は2007年から

2012年まで6年間にわたってミュージカル『ピーターパン』で8代目ピーターパン役を演じるなど舞台経験も豊富な実力派。12月公開の映画『バンクーバーの朝日』など、今後も話題作への出演を控える彼女の、ポジティブスタイルに注目!

映画『バンクーバーの朝日』豪華男優陣の中で光った高畑充希の存在

今、最も気になる若手女優の1人、高畑充希。彼女が新たに挑んだ映画『バンクーバーの朝日』が12月20日より全国公開となる。同作は戦前のカナダに実在した日系人野球チーム・バンクーバー朝日の活躍がもたらした奇跡の実話を豪華キャストで描く感動作。高畑が演じるのは、妻夫木聡演じる野球チームリーダー・レジー笠原の妹・エミー。日系二世としてハイスクールに通いながら裕福な白人家庭でハウスワーカーとして働く少女。カナダ社会に溶け込もうとしない者もいるなか、エミーは前向きに努力し、奨学金を目指す。

「エミーは、言動や考え方がとてもしっかりしているんですが、実はふとした瞬間に10代の女の子らしさが垣間見えるんです。その少しアンバランスなところがエミーの魅力だと思います。奨学金がダメになった日の帰り道、一緒に歩くお兄ちゃんに何も言わず、1人で我慢するんです。だけど家に帰ってから違うところに向けて爆発しちゃったり(笑)。そんなところも10代ならではのかわいらしさかな、と思いますね」

兄たちの弱小野球チームを温かく見守り続けたエミーは、しだいに勝ち進んでいく彼らに勇気づけられていく。戦争が近づき、日本人への風当たりが強まる中、それでも野球を愛し続ける彼らに、エミーは1つの歌を贈る。それは、今なお歌い継がれる野球ファンの愛唱歌『Take Me Out to the Ball Game』。湧き上がる涙を抑えながら、懸命に歌うエミーの姿

は時代を超えた感動を呼び覚ます。この重要なシーンを演じるにあたり、意識したことは?

「気をつけたのは“歌を練習しないこと”です(笑)。あの場面で、すごく上手に歌うのはちょっと違うな、と思って。あそこは歌のシーンというより、伝えるシーンなんだと思ったんです。英語の発音は一生懸命、練習したんですけどね。英語のセリフで演じるのは今回が初めてだったので。でも歌の練習は一切しませんでしたね。もう当たって砕けろ、という思いでした(笑)。撮影のときは、本当に緊張していました。あのシーンは、自分が背負うものが大きすぎて。自分では、1回でOKを出したいと思ってはいたんですけど、緊張しすぎて、できる気がなくて(笑)。でも石井監督が、私がダメな方向に行きそうになるのを、ふっと引き寄せて戻して下さったんです。それでなんとか平静に戻って、セリフの部分から歌い終わるまでカメラを回し続けた状態で、1回でOKを出すことができました。終わった時は本当にホッとしました(笑)。完成した映画を見たら、BGMを入れずに私の歌声だけで勝負してくれていたことが、すごくうれしかったです」

彼女の歌声に、その場にいた共演者たちも大きな感動を覚えたようだ。

「みんな帰りのバスの中で、あの歌を歌ってましたね(笑)。歌を聞いているときの皆さんの顔がすごく素敵で、その表情にもすごく助けられたと思います。あの場面で、それまで別々に語られていた野球

チームの人々とエミーの物語が交わって、一つになるところが、すごく素敵だと思いますね」

メガホンをとったのは『舟を編む』で日本アカデミー賞を総なめにした石井裕也監督。石井監督との仕事も、自分を成長させてくれたと振り返る。

「石井監督は…“怪物”ですよ(笑)。もちろん監督にも葛藤や不安はあると思うんですけど、監督がそういうならそれが正解に違いない、とみんなに思わせてしまうんです。すごいビッグマウスなんですけど(笑)、それを有言実行するから、みんな、監督を信じるんです。サッカーの本田選手みたいな感じですよ(笑)。この映画は実際の出来事がもとになっているんですが、監督は誰よりこの映画のテーマを調べて勉強したという自信はある、と仰っていました。石井監督は、そういう事実をしっかりと示してくれる。逆に、監督もスタッフや俳優を信用してくれるんですよ。だから、別にハードルを設けられているわけでもないのに、監督の期待をはるかに超える仕事をしないとイケないような気になってくるんです」


チーム朝日のメンバーを演じるのは、兄役の妻夫木の他、亀梨和也、勝地涼、上地雄輔、池松壮亮といった世代を代表する俳優たち。

「妻夫木さん以外、野球経験があるということもあって、皆さんすごく上手でした。私は野球が全然分からないんですけど、観戦シーンの撮影では、ただただ感激していました。妻夫木さんは、ほとんど野

球をやったことが無いとおっしゃっていましたが、それでも遜色なくプレーしていて、さすがだなと思いました。すごく練習したそうで、本当に努力の人だと思います。妻夫木さんってすごく気さくに、スタッフみんなと接するんですよ。あと、なんだかいつも楽しそう(笑)。今回は、他の皆さんも同じでしたね。とにかく撮影を楽しんでいる感じ。野球チームはみんな仲良くて、うらやましかったです(笑)。撮影中、私も何度か夕食にご一緒させて頂いたんですけど、やっぱり女子がいると皆さんが何となく気を使ってくれるというか、男同士の会話を楽しめないだろうと思って、ほど良いところで切り上げて子役の子を連れて先に帰っていました(笑)」

メンバーたちの本格的なプレーやチームの絆に加えて、巨大なセットで再現した日本人街の風景も見どころとなっている。

「セットは本当にかっこよかったです。私自身、オープンセットで撮影するのが初めてだったこともあって、本当に感動しました。セット内にいると、とても栃木にいるとは思えませんでした(笑)。特に夜になるとライトアップされて素敵なんです。歌を歌う撮影の日、撮る前は緊張で景色を見る余裕なんてなかったんですけど、撮り終わって夜のセットを歩いたときは、なんてきれいなんだろうって感激しました(笑)」



気をつけたのは
“歌を練習しない”こと（笑）。
あれは“歌う”場面じゃなく
“伝える”場面だったから。

1991年12月14日生まれ。大阪府出身。山口百恵トリビュートミュージカル『プレイバック part2～屋上の天使』（演出：ラサール石井）でオーディションにより1万人近くから選ばれ女優デビュー。2007年から2012年まで6年間にわたってミュージカル『ピーターパン』で8代目ピーターパン役を務めた。今年10月には最新舞台『奇跡の人』で高い評価を得た。『軍師官兵衛』の他にもバラエティー『未来ロケット』（CX）にレギュラー出演中。映画『アオハライド』（12月13日公開）にも出演。

スタイリスト：大石祐介 撮影：神谷渚

「大変だけど面白い」舞台で、映画で逆境を楽しむポジティブさ

舞台の公演のためなどで、全国各地を飛び回ってきた経験も彼女のポジティブさを培っていた。

「地方に行くときは、やっぱりその土地のおいしいものを食べることが大きな楽しみなんですよ（笑）。おいしいものを食べて、ぐっすり眠れば大抵の悩みは吹き飛んじゃいます（笑）。もともと気持ちの切り替えは早いタイプだと思います。頭の中で、どんどん次のことを考えちゃうんです（笑）。舞台で鍛えられたおかげもあると思いますね。舞台は常に一度きりの生ものなんですけど、何公演もあるので、逆に安心感もあるんです。今日はこういう感じでやってみたけど、明日は違う感じでやってみよう、とかいろいろ挑戦できるんですよ。そこが舞台の面白いところでもあり、勉強にもなる場所です。それと、逆境に強くなります（笑）。もちろん大変だし不安もあるんですけど、思うようにいかなくても次は頑張ろうという気持ちを持つようになりました。今回の映画も初めて経験することが多くて逆境だらけというか、けっこうプレッシャーがありました。映画界を代表するスタッフや役者さんを前に、怖気づきそうになる自分もいたんです。それこそこれまで、石井監督や妻夫



木さんの作品を、一映画ファンとして見ていた人間ですから（笑）。でも萎縮しないって覚悟をきめたんです。皆さんと比べて映画の経験が少ないことは事実なんだから、聞きたいことは聞いて言いたいことは言うようにしていました（笑）。終わってみたら皆さんのおかげで本当に楽しかったし成長もできた気がします。この映画は自分の中で一つの転機になったと思います」

最後に岡山の読者にメッセージを！

『『ピーターパン』の公演で、倉敷に伺ったことがあるんです。これからも、映画やドラマだけでなく舞台作品にも出演していきたいと思っているので、また倉敷公演でお会いしましょう！』

『映画『バンクーバーの朝日』』



©2014「バンクーバーの朝日」製作委員会

戦前のカナダ・バンクーバーに実在した日系人野球チーム・バンクーバー朝日。困難な境遇にも負けず、小柄な体を生かしたプレーで白人チームに立ち向かっていく青年たちの姿を描く感動作。

監督：石井裕也 出演：妻夫木聡、亀梨和也、勝地涼、上地雄輔、池松壮亮、佐藤浩市、高畑充希他／東宝配給／12月20日より全国公開 <http://www.vancouver-asahi.jp/>

高畑充希'S

POSITIVE ITEM

いつも前向きな高畑充希の気持ちがアがるポジティブアイテムを紹介

FOOD

私の元気の源は、お寿司です!(笑) 私、本当にお寿司が大好きで、ご褒美とか特別な日に食べるのは、ほとんどお寿司ですね。そういうときに食べに行くお寿司は、ちゃんとカウンターで、本格的なお寿司を頂きます。どのネタが…というより、とにかくすべてが好き。寿司という食文化そのものが好きなんです(笑)。

RELAX

大切なのはリラックスする時間を作ること。特に睡眠ですね。私、本当に眠るのが好きというか、必要不可欠なんです。希望としては最低でも7時間は眠りたい(笑)。最近、すごく素敵な柄のお布団を買ってしまったんです。モロッコ風のデザインで、ちょっと珍しい柄で、それがすごく素敵なんです。実はけっこうエスニックなデザインが好きで、クッションとかも合わせてます(笑)。大好きなデザインのアイテムに囲まれて、素敵なお布団にくるまって眠る時間が、最高に幸せです。そうすると大抵、一晩経てば元気になりますよ!(笑)

MOVIE

もともと映画を見るのは好きですね。映画を見て元気ややる気もらうこともよくあります。最近のおススメは、石井監督の『ぼくたちの家族』。妻夫木さんと池松さんが兄弟を演じているんです。石井監督に『ぼくたちの家族』が面白かったです、と言ったら、当たり前だって言われました(笑)。



DVD『ぼくたちの家族』発売元・販売元：TCエンタテインメント
発売日：11月21日 価格：3800円(税別)

PRESENT

高畑充希さんのサイン入り色紙を
3名にプレゼント!

応募方法などの詳しい内容は「OKAYAMA MOVE UP」公式 facebook ページよりご覧下さい!

OKAYAMA MOVE UP

検索



Be POSITIVE

Culture/Item/Entertainment and more

人に元気を与える人になるには、自分自身が元気でハッピーじゃなきゃ。ムカつくこと、悲しいこと、情けないこと、失敗すること、心が痛くなる出来事…。毎日毎日嫌なことはあるけど、ほんの少し見方を変えて見ることで、気持ちちは前向きに立て直せるはず。そんな時、そっと背中を押してくれるさまざまなモノ。友達、家族、ペットなど心許せるモノをはじめ、楽しい映画、ノリノリの音楽、感動的な本など、心に響くものを誰でもひとつ持っている。ま

た、それだけではなく、髪形を変えたり、旅行に行ったり、美味しいものを食べたり、やってみたかった習い事に挑戦したり、自分を変えてみることで、人生が楽しくなる方法もたくさんあるはず。そんなポジティブになれる最強のカルチャーやアイテムやエンターテインメントなどをご紹介。あなたの気持ちがハッピーになるようなモノに出会えますように。

EXILE SHOKICHI、ファンに自分史上最高の肉体美 CM を披露！

『アンファー スカルプD』の新CM発表会が10月20日、東京都内の映画館で行われた。会場には、噂の新CMをいち早く鑑賞しようと、事前に募集されたファンが詰めかけた。ファンの大歓声を浴びながら登壇したEXILE SHOKICHIは、「以前にもTHE SECOND from EXILEとしてアンファーさんのコマーシャルに出演させていただいたことがあったのですが、今回は単独ということでもとても光栄です。上半身裸と聞き、自分史上最高の体を目指しました」と語った。



過酷な体作りでCMに挑んだSHOKICHI。「徹底的に体作りをしたり、撮影で水圧に耐えたりして、おかげで“男を上げる”ことができたと思います(笑)」

そのCM、2バージョンが上映されると、見事な筋肉が浮き出た上半身の映像や、Tシャツを脱ぐシーンなどで、歓声が次々と起こり、上映後には大きな喝さいが沸き起こった。トークでは、「体脂肪を9.8から7.8%まで落としました」「撮影前日は余計な水分を抜いて筋肉を際立たせるために、水も飲みませんでした」と過酷な体作りの裏話を披露。見事な肉体美の映像に色めき立っていたファンも、SHOKICHIの話に感心していた。EXILEメンバーにもこのCMを見せたというが「あまりにも僕がキメているので、HIROさんに爆笑されました(笑)」と苦笑い。それでも「キャッチコピーの“男を上げるシャンプー”を表現できたと思います」と出来栄に自信のぞかせていた。



EXILE SHOKICHI 『The One』

2014年6月にソロデビューを果たしたEXILE SHOKICHIの2ndシングル。作詞・作曲をSHOKICHI自らが手掛けた、渾身のラブバラードだ。DVDには『The One』のミュージックビデオを収録。カップリング曲『Loveholic』はスカルプD TVCMソング。『The One』発売中【価格】シングル/CD+DVD 1944円・税別 CD1296円



MC 玉川洋輔

DREAM ARTIST

OKAYAMA

玉川洋輔 / 25歳
1989年9月12日生まれ
岡山県出身

玉川(以下 玉):いろいろな大会への出場、そして優勝経験もたくさんされている三枝さんですが、夢を叶える為に必要なことはなんですか？

三枝(以下 三):「元気」ですね。元気といったら範囲が広いかもしれませんが(笑)。「元気があればなんでも出来る!」といった言葉がありますが、元気がないとやる気も出ませんし、テンションも上がらないですからね。まさに「その通りだな。」と思います。

2
VOL.

GUEST 三枝 拓矢 夢を叶える為には、チャレンジし続ける心。

玉:夢のカクチや想って人それぞれ違って、おもしろい物だと思えますし、夢があれば何より、毎日が楽しいですね。僕は岡山に在住しているので、岡山の人たちに「歌」というものを通じて、夢を持つことの大切さを伝えていきたいですね。

三:夢を持った方が楽しいですね。夢を追う中でたまにストレスを抱えることもありますけど(笑)。でも、チャレンジし続けることがすごく大切だと思っています。カラオケ大会に出始めた頃は賞なんて貰えなかったんですが、諦めずに大会へ出場し続けた結果、今があるのだと思っています。

玉:大会などで、「これがあるから頑張れる!」といったものはありますか？

三:歌仲間ですね。大会などに出演していると、たくさんの歌仲間ができ、その方たちの歌を聞いたり歌の話をしたりしていると、モチベーションがすごく上がりますね。県外の大会に出場する時、仲間から「岡山勢頑張っ!」といったかけ声をいただいた時は、すごく励みになりますね。やっぱり仲間はすごい大切なです。

玉:大会に出場してこれだけの数の賞を受賞するのは難しいことですか、なかなか受

らいに「一緒にライブをしよう」とお声かけいただいたのを今でも覚えています。ツアーコンサートって僕は初めて経験させていただいたのですが、三枝さんの意気込みをお聞かせ下さい。

三:いつもライブより「カラオケ大会」などで歌うことが多いのでライブと大会って本当に全然違うのですが来ていただいたお客様に、楽しんでもらいたいですね。

玉:最後に、今後の「夢」を教えてください。

三:いろいろなカラオケ大会があるんですけど、全国規模の大会で優勝して日本一になりたいですね。そうならば岡山で応援して下さっている方たちにも喜んでいただけると思いますし、全国の方々に岡山のPRにもなると思います。なので、もっといい歌、そして人の心に響く歌を歌っていけるようになりたいですね。大前提に、聞いて下さる方に喜んでいただきたいという思いがあるので、その為に、大会などにどんどん出場し、優勝していきたいです。「元気」そして、チャレンジし続けることをこれからも大切にしていきたいです。



撮影:元山龍斗

三枝 拓矢 / 29歳
1985年1月26日生まれ
岡山県出身

2009年3月NHKのど自衛隊岡山大会にてチャンピオン受賞。
NHKホールで行われたグラッドチャンピオン大会選出
各種カラオケ大会に出場、グランプリ賞
カラオケ世界大会の日本代表を決める日本決勝にも
進出した経験を持つ。

オール岡山ロケ。映画『でーれーガールズ』

9月13日にクランクインし、前例がないというオール岡山ロケで撮影が進んだ『でーれーガールズ』は、原田マハ氏が2011年に上梓した同名小説が原作で、2人の女性の30年の時を越えた恋と友情の物語。1980年の岡山を舞台に、東京から転校してきた鮎子を優希美青、同じクラスの美少女・武美を足立梨花が演じている。親友となった2人はある事件をきっかけに決定的な仲違いをしてしまうが、30年後、漫画家になった鮎子は母校での講演会で教師になった武美と再会。大人になった2人を、元宝塚歌劇団トップコンビの安蘭けい（武美）と白羽ゆり（鮎子）が演じるほか、前号で本紙に出演した、桃瀬美咲、岡山出身の甲本雅裕、前野朋哉が出演することでも話題だ。撮影では、岡山市の奉還町商店街や鶴見橋、倉敷市でも行われ、

タイトルにもある「でーれー」などの方言から、見慣れた風景まで岡山の魅力をふんだんに盛り込む。

また、主演女優らによる制作報告会で、岡山に転校してくる生徒役の優希は「全国どこにでもありえる青春だと思います。この映画は地元が恋しくなったり、家族に会いたくなる作品なので、楽しみにしてください」とニコリ。最も印象に残るシーンは、「武美（足立）とのぶつかり合い、そして離れていったシーンには本当に感情が入りました」と振り返る。一方セリフにたっぷり岡山弁が含まれる足立は「方言指導の先生に最初はいろいろ直されましたが、今となっては何も言われなくなりました。岡山の人になれた気がします」とほほ笑んだ。

同作は、2015年2月14日に岡山で先行上映し、その後全国で公開される。

原作:原田マハ「でーれーガールズ」(祥伝社刊) 監督:大九明子 脚本:源考志 音楽:矢野博康 出演:優希美青、足立梨花、白羽ゆり、安蘭けい他 <http://deereegirls-movie.jp/>



©2015 原田マハ/祥伝社/「でーれーガールズ」製作委員会

ミステリー界激震！ 国民的名探偵が迎える衝撃のラスト 『遺譜 浅見光彦最後の事件』 著者：内田康夫

テレビドラマでも人気の浅見光彦が、ついに最後の事件に挑む。構想6年、シリーズ最大の力作とあり、事件は戦前から現代、また舞台も東京、軽井沢、丹波篠山、神戸からヨーロッパまでワールドワイドに展開。謎の連鎖が光彦を、事件の真相に誘う。始まりは浅見家に届いた一通の手紙。それは本人が知らない間に企画された光彦の34歳のサプライズパーティーの案内状だった。発起人の一人、本沢千恵子はドイツ人ヴァイオリニスト、アリス・ラインバッハと浅見家を訪れ、丹波篠山で行われる音楽イベントに2人が出演する際に、ボディガードを頼みたいという。アリスはドイツにいる祖母に、丹波篠山で「インヴェ」という男が持っているという楽譜を受け取ってくるように言われている。



た。しかし、そこに待ち受けていたのは殺人事件で、光彦は容疑者の疑いをかけられてしまう。そしてアリスの頼みでドイツへと赴いた光彦は、丹波篠山の事件と、70年前に企てられた陰謀に繋がりがあるのでと直感する。綿密に組み立てられ、何十年の間沈黙していた歴史の暗部が今暴かれる?! この事件を機に、探偵を辞め、人生を見つめ直す光彦。正義と大義の狭間で戸惑う名探偵・浅見光彦がたどり着いた究極の決断とは。

【本体】上下各1700円(税別) 【発行】KADOKAWA

ベッキオバンビーノ×ノスタルジックカーフェスティバル ベッキオバンビーノ初の屋内イベント

岡山県を代表するクラシックカーの祭典、ベッキオバンビーノが、ノスタルジックカーフェスティバル実行委員会と共催し、9月20～21日にコンベックス岡山で「ノスタルジックカーフェスティバル in 岡山」を開催した。

ベッキオバンビーノとしては初の屋内型イベントとなったが、主旨である夢を持つことの大切さを次世代に伝えることと、交通遺児や被災地の子どもたちを支援するチャリティー活動が2大テーマであることには変わりはない。屋内イベントとなっても、普段では滅多に見る事のできない数々の名車が集まり、約100台が展示された。



チャリティーは、前週に開催したステージしまのわ 2014 と今大会を合わせ、総額102万円を超える募金が寄せられ、大会準備期間中に起きた広島大規模土砂災害の被災地復興支援の義捐金にもあてることになった。

玉川 洋輔 × 三枝 拓矢 ツーマンコンサート

KEEP TRYING

～ 夢に向かって挑戦し続ける人達へ～

★コンサート情報

【日時】 11月24日(月・祝) 18:30(開場) 19:00(開演)

【会場】 Hallelujah

岡山県岡山市北区表町2-3-3 宇野乾テラス2F

【料金】 2000円(前売)、2500円(当日)
+ワンオーダー(ドリンクのみ)

【チケット取り扱い】 Hallelujah TEL:086-225-2515

【注意事項】 飲食持ち込み不可、全席自由



OKAYAMA MOVE UP
日本を元気に

加藤勝信

内閣官房副長官

自由民主党岡山県連会長

岡山の恵まれている部分を しっかり活用!!

2012年に行われた第46回衆議院議員総選挙で岡山5区から出馬し、4回目の当選を果たした加藤勝信衆議院議員。同年12月に発足した第2次安倍内閣では内閣官房副長官に起用され、今年9月に行われた内閣改造でも引き続き現職を任された。岡山県地元選出の加藤副長官に地元・岡山のこと、安倍政権のことなどをうかがった。(聞き手・一木広治)

——最近では地方創生ということが盛んに言われていますが、それに先駆け「OKAYAMA MOVE UP」は2013年1月から、「岡山から日本を元気に」というテーマを掲げ、活動しています。加藤さんからみて、地元・岡山のポテンシャルや今、岡山がやるべきことを聞かせてください。

「もともと地方創生の議論が出てきたのは、元総務大臣の増田寛也氏が代表を務める日本創生会議が出されたリポートがきっかけでした。それは“2040年までに896の自治体が消滅する”というショッキングなもので、岡山も、私の選挙区もほとんどがその対象でした。そういう数字が具体的に示されたということは非常に大きかったのですが、私はこの5～10年活動をしながら、そういう流れも感じていましたし、地域の人も身近に感じていましたから、そんな中でいかにそれぞれの地域を残していくのかということが肝心であると思います。岡山は中山間地域が多いのですが、そうした山々では田んぼが荒れてしまい、3年経つと林や山に戻っているわけです。そういう状況を目の当たりにして、田畑でお米などを作ってきた先代や先々代の人たちの思いというものをどう継承していったらいいのかということを常に思っていました。そういう中でこれから取り組むべきポイントのひとつは今、議論になっていますけれども、農業です。岡山の場合は特にピオーネをはじめ果物などがあり、それなりに収入もあります。あとトマトもですね。もともとブランドもありますし、力を入れている地域もあるので、UターンだけでなくIターンで多くの方々が戻って来られているという面があります。また、圧倒的に災害が少ないということがあります。地震も少ないんですけど、トータル的に災害が日本一少ない地域なのです。そういうこともあってか、距離が遠い割には被災した東北から来られている方が多いのです。そういう意味では、外から見ると、いろいろな意味で魅力がある地域であると思っています」

自分は何をしたいのかをしっかりと見極め、その実現まで努力し続けることが大事

——「OKAYAMA MOVE UP」は、もともとは地元の若手経営者たちが立ち上がって生まれた活動です。やはり人材が大事。そして岡山って元気な会社が意外と多いんだなと実感しました。そんな岡山で注目すべき産業といえば、どんなものが挙げられますか？

「ひとつは繊維産業の関係があるのではないのでしょうか。もともと繊維産業が盛んであり、例えば倉敷の児島地域などは結構会社が多いように思います。ということは社長さんが多い、つまりは自立性が高いという風土があるのではないのでしょうか。そういう風土の中で、繊維関係を含めていろいろ新しい試みに30代を中心に若い人々が挑戦されているという感じがしますね」

——今、政権の中核におられます。官房副長官として安倍政権を支えられていて、これまでの手応えと今後の取り組みを聞かせてください。

「経済のほうは、ここきて消費税の引き上げ、天候不順等々の影響があって、やや足踏み感があります。しかし私たちが政権を奪取しようとしていた一昨年の11月くらいから株価は上がっていますし、全体の雰囲気が変わってきていますよね。経営者の方々も守りから攻めに変わってきたな、という雰囲気は出てきているのではないかと思います。それから外交面。総理はのべて60カ国近く海外に行かせていただいております。同じところに2～3回行っている場合もありますから、実質でいうと現在49カ国。今度、中国へAPECで行くと50カ国目となります。私もその半分近くに随行しています。この数字は小泉総理が5年以上続いた政権の下で行かれた数を凌駕しているのですが、戦略的に行っているということ、久しぶりに日本で1年を越える政権基盤を持っているということで、海外に行っても手応えが全然違ってきたなと思います。アジア全体で中国が非常に伸びているという状況の中で、特に東南アジアの国々からすると、日本が存在感を示すということは、中国と日本との間でうまくバランスを取っていきやすくなるわけですから、非常にウェルカムな状況だと思えますね」

——2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、日本はそれに向けていろんなことに挑戦していける機運が高まってきました。加藤さん自身の2020年に向けた目標。また次世代に、2020年を目指してこんなことを頑張ってみたらどうだろう、といった提言はありますか。

「1964年のオリンピックは、私は9歳で経験しました。あと6年元気でいれば(笑)、一生で2回、自分の国でオリンピックを経験することになります。複数回オリンピックを開催している国はありますが、戦後でこういう状況はなかったわけであり、これは多分、そうあることではないと思うのです。日本は高齢化社会になりつつありま



生年月日 昭和30年11月22日生まれ／選挙区 衆議院議員岡山5区／当選回数 当選4回(略歴)昭和54年3月 東京大学卒業／4月 大蔵省 入省／昭和59年7月 倉吉税務署署長／平成6年4月 農林水産大臣秘書官／7年10月 衆議院議員 加藤六月 秘書／12年12月 川崎医療福祉大学 客員教授(現職)／15年11月 衆議院議員初当選／17年9月 衆議院議員2回目当選／17年12月 自由民主党岡山県第五選挙区支部長／19年8月 内閣府大臣政務官就任(安倍改造内閣)／9月 内閣府大臣政務官再任(福田内閣)／21年8月 衆議院議員3回目当選／23年6月 自由民主党岡山県支部連合会会長／24年12月 衆議院議員4回目当選／12月 内閣官房副長官就任(第二次安倍内閣・現職)／26年5月 内閣人事局長就任(現職)

す。1964年の東京オリンピックを経験した世代の人たちも高齢化していますけれども、そういう人たちが非常に元気になってきました。あのころのムードを知っている人たちも含めて、前向きに物事を考えていくという機運が高まってきました。これまでどちらかというと、2025年になると高齢化率がどうなっているといった視点からの見方であったわけです。しかし、今はそうではなく、“2020年にオリンピック・パラリンピックがある。それによって日本も随分変わっていけるんだ。じゃあ俺たちは何をしよう、何ができる？ ということしよう”ということがどんどん出てくる。また出てくることを進めていくことが安倍政権の成長戦略であり、また規制等によってできないことがあれば、それを取り払ってやれる環境を作る。そしてやれる環境が整ったら、もっとやろうという気が起きてくる。隣の人がやっている姿を見て“俺もやろうか”という気分にもなる。こういう前向きな渦が広がっていくことを期待しています」

——次世代の若い人たち。いえ、若くな

くても頑張っている人たちに、困難に向かうにあたっての心構え、困難に陥った時にどう乗り越えてきたかといったことを聞かせてください。

「私はもともと大蔵省にいましたが、退職しまして、その後選挙に出たのですが何度か落選を経験しました。生きていく中ではいろいろなことが起きるのですが、本質は、常に“自分は何をしたいのか”ということをしっかり見極めることだと思います。いろいろな状況から挑戦し続けることが困難となる場面も出てくるとは思いますが、やはりやり続けられない限り、事は成就しないのではないのでしょうか」

——人生の転機といったものは何歳くらいに訪れたのでしょうか？

「40歳の手前で役所を辞めました。義理の父親が衆議院議員をやっていたのですが、自民党から離党したりしていろいろなことがありました。その後、私も出馬することになるのですが、というふうに挙げていくと転機の連続ですけどね(笑)」



——岡山の読者にメッセージをお願いします。

「岡山はいろんな意味で恵まれている地域だと思います。災害も少ない、冬でも晴れている。晴れの国と言われるくらい晴れている日数も多い。交通手段をみても、岡山市は2009年に政令指定都市になりましたけれども、その前から新幹線ののぞみの停車駅でした。政令指定都市以外で、のぞみが停まったのは岡山だけだったんです。中国四国地方の交通の要所でもあります。いろいろな面で恵まれているという部分が逆に地元にいると当たり前に見える。外から見ると、そういう羨ましいところがたくさんあるので、そこをしっかり活用していく。岡山に眠っている、あるいは活用されていないものをもっと活用していけば、かつて吉備王国というものがあって言われているのですが、それを復活させるくらい、日本の岡山ではなくて、岡山の日本といった気持ちで頑張っていきたいと思っています。そういう意味でもOKAYAMA MOVE UPの活動に大いに期待しております！」

TEAM 2020



TEAM2020™ www.team2020.jp

“東京から日本を元気に”を合言葉に2007年から社会的意義のある各種取り組みを行ってきた「TOKYO MOVE UPプロジェクト」では、東京オリンピック・パラリンピック開催が決まった2020年に向け日本を元気にする“TEAM2020”アクション宣言を展開中。みんなの思いを聞かせてください。



「自分自身が誰よりも元気に！」



「スマイル♡」



「百年企業を通りこして二百年企業を目指します！」



「野球のスタメンになれるように頑張ります！」 「野球のスタメンになれるように頑張ります！」



「力強く生きていく！」



「デッカくなる！」



「毎日笑顔で頑張ります！」 「右手には夢!左手に希望,心に愛♡」
「愛情たっぷりの男になります!!」



「立派な大人になり社会の役に立つ人間になる！」



「皆の幸せを祈り,生きていく！」

TEAM 2020™

from Okayama Vol.1



岡山の街の人に聞きました!!

Q. 2020年を目指して日本を元気にしていくために何をしますか?



「阪神の優勝を信じ,応援します。」



「これからも金本ファンがんばります！」



「まず自分が元気に！」



「美容業を通して女性を幸せにし,ひいては男性も幸せにします！」



「リサイクル革命起こします！」



「自分自身の健康を保ち元気に過ごしていきます！」



「岡大行きます！」 「笑顔をやささない！」



「笑顔を忘れずフィットネスに頑張ります！」



「東京オリンピック,パラリンピックの成功を願う」



「ゴルフで健康管理致します！」



「笑顔をやさしません!!」



ご協力してくださった方々,ありがとうございました!

SPECIAL INTERVIEW

歌手・歌のおねえさん

山岡ゆうこ

学生時代から夢だった歌手の道へ。

歌のおねえさんとしての目線、考え方、夢を打ち明ける。

やっぱり子どもが好き、歌が好き。

まず歌手を目指そうと思ったきっかけは？

山岡(以下、山)「大学の在学中に『歌のおねえさん』になりたかったっていうのがあって、そこからNHK『おかあさんといっしょ』のオーディションを受けて。でも実際通らずそれを何度も繰り返して、他の教育番組とかも受けたけれども、やっぱり通らず…。でも、歌のおねえさんは夢だから絶対あきらめられなくて。それからボイストレーニングも行ったり、クラシックバレエだったり、ジャズダンスだったり、レッスンに行ったりとか。やっぱり子どもが好きっていうのと歌が好きっていうのが一番あって自分らしくいられるのがその2つだと考えていました」

歌の魅力、歌のおねえさんの魅力とは？

山「歌の魅力は声が楽器であること。何も楽器はいらないし、自分の持ち声が楽器だから何もいらない。自分の身ひとつで自分の感情だったりとか歌詞だったりとかをたくさんの人に伝えることができる。それはちっちゃな子からおじいちゃんおばあちゃんまでのその言葉が響く、感動させられるっていうのは歌だからこそできるんじゃないかなって思います」

歌のおねえさんとしての責任感

歌のおねえさんを目指してつらかったこと、くじけそうになったことは？

山「『おかあさんといっしょ』でダンスとかレッスンがきびしいっていうのはやっぱり自分がやりたいことだし好きなことだから、どんなことでも乗り越えられました。でも会場に来てくれたのに、だだをこねてる子どもだったり泣いてる子どもたちを歌で楽しませてあげられなかった、楽しんで帰らせてあげられなかった時に、歌のおねえさんとしての責任感があつたりとか、なんでできなかったんだろうって。会場の舞台上に“上がってきていいよ”って言ったときに全員を上げたいと思うし、おねえさんだからできるっていうのもあると思うから悔しかった。全国各地に行くんですけど場所によって反応がそれぞれ違いますね。ある地方とかに行くと“すごい楽しかったよ!!おねえさん、ありがとう!!”って言うんですけどコンサート中は、とっても静かで拍手とか…。その反応の差が果たしてどう感じてくれるのだろうか?と悩んだりします」

ある子どもが泣いてるときとかどんな想いで道を開いてあげますか。

山「できるだけその子に視線を向けようと思ってます。でもたくさんのお客さんがいらつしやるから、その子一人に集中することはできないけれども“あなたに届くように歌ってるんだよ”ってその子に手を振ってあげたりとかすることによって笑顔が変われば歌ってよかったって思えるし、“あつ!!届いたな”っていう、子どもたちと私とのキャッチボールができた感じがして、それは親御さんにも実際に届いてると思うんです。一体感はもちろんだけでも大きな空間の中で一対一でコミュニケーションがとれたっていうのはすごく幸せなことだなんて。それは楽器では表せないことでしょうか。だから、“あー歌ってよかったな”って思います」

「ただいま」、「おかえり」。

山岡ゆうこさんにとって岡山ってどんな存在ですか？

山「…絶対帰ってくる場所。心地いい場所。全国各地に行くけども、やっぱり岡山に帰るとホッとします。同じ岡山のコンサートに行ったとしても、皆さんの“おかえり”っていう一言、それは岡山でないと聞かないことかなと。だから、“ただいま”って言ったらか客さんの“おかえり”っていう言葉が聞きたいから帰ってきたいって思います」

そんなホッとすると、地元岡山の魅力は？

山「人が、あつかい。よく方言がわかりにくいって皆言うけど、それは岡山の良さじゃないかな。特徴だし、それが故郷らしくいいところだと思う。それがなかったら岡山じゃないって思ったりします。でーれー、ぼっけー、もんげーって言うけれども(笑)、これが岡山じゃなくなったらダメじゃない?って思います。確かに『おかあさんといっしょ』のおねえさんだったときはイントネーションをすごく気をつけました。台本読むときも、アクセントが違ったり、“↑うしろ”“うし↑ろ”っていうのが違ったりすると、子どもたちが違う方向に行っちゃうから、とても言葉のイントネーションにきびしいです」



歌のおねえさんは他の歌手と違うところがあると思うのですが、他の歌手とは違うことで特に意識していることはありますか？

山「それは、舞台上立つ中だったり、レッスンを受ける中で、おねえさんって夢を与える仕事だから、歌詞も間違えちゃいけないし、おねえさんが困った顔をひとつする、泣いてる顔をひとつすることによって子どもたちの気持ちが左右されるから。だから容姿も言動も気をつけなければいけない。そこはとても意識してます。それを日ごろから気をつけなければいけないけどやりたかった夢だからやはりオーディションは受けてよかったかなって」

最後に今後の夢や目標を教えてください!

山「今まで子どもの歌と童謡唱歌を大切に歌ってきたけど、それはもちろんこれからも大切に歌っていききたいと思うし、もっと歌の世界というより音楽の世界を広げていききたい、と思います。そしていつかは我が子に私の歌を聞かせたい。それが一番の目標です!」

山岡ゆうこ 歌のおねえさん 岡山県井原市出身
2005年よりNHK『おかあさんといっしょ』で「てーちョコランタン小劇場」、「モノランモノラン小劇場」に、歌のおねえさんとして出演。2011年9月30日に、バラード曲「君住む街に」を含む、ミニアルバムをキングレコードよりリリース、新しい「山岡ゆうこ」のスタイルを確立し、今後の飛躍が期待されている。

MOVE UP vol.3 DRIVING

L♡D - Love Driver -

「飲酒運転」、「無免許運転」ゼロを目指す、「命の大切さ」というものを強く岡山から発信し、岡山をより良い街へ、「誰かのために今」、なにをするか考え、そしてみんなが受けるある運転を、「どうしたい」と考えたプロジェクトです。



出張交通安全活動について

ご依頼をいただいた高校や中学校へ出向いて、出張交通安全教室を開催しています。高校生や中学生が対象なので、歩行者や自転車の立場での交通安全が中心です。弊社の交通安全教室は体験型ですので、晴天なら運動場で、雨天なら体育館を使って実験や実演を中心に行います。交通安全の良いこと悪いことは皆さんも既に知っていることだと思いますが、知ってはいても実践されていない面があるように思われます。また、自分が事故に遭う、自分が事故を起こす、なんて普段あまり考えません。そこで、実験をしたり事故再現を見学したりして、各々が「感じ」、安全に対する意識を高めてくれるような授業を心がけています。私はこの交通安全教室では、「こうしなさい!」とか「してはダメ!」という教え方をするのではなく、子どもたちが自ら「こうしなさい。」と思えることこそ大切で、そのきっかけになればと思っています。この活動は、弊社の地域貢献活動として無償で開催しています。



講習後の生徒を見て感じたことは?

授業後に感想文をいただくことが多いのですが、「こういった講習は初めてだ!」や、「こんな交通安全教室はしてもらった事がない!」という感想が多いですね。幼い頃は婦警さんが来て、腹話術や着ぐるみで楽しく交通安全を教えてくれたと思います。しかし、中学や高校となると講話やビデオ鑑賞がその手段になり、あまり興味が持てない、やもすれば退屈と感じてしまうような傾向があったのではないのでしょうか。そういった点で、体験型の授業は生徒の皆さんに歓迎されていると感じます。交通安全って教習所に通うようになってから始めるものではないかと思っていて、やはり、その前から繋がっていると思うんですね。ですから、高校生や中学生に交通安全を教えるのも教習所の役割りだと私は思いますね。高校生や中学生も今は歩行者や自転車であっても、将来はドライバーになるわけですから、安全のモノサシを作るという意味で、それは教習所の大切な仕事でしょう。

備前自動車岡山教習所として伝えていきたいこと

「命の大切さ」は、やはり講習をする中で伝えていきたいですね。講習の中で交通事故の再現を行います、その衝突の瞬間に誰も本能的な衝撃を覚えると思います。「知識」よりももう少し深い部分で「命」というものを感じてほしいです。私は「交通」という枠だけではなく、人として忘れてはならないもの、大切なものを感じていただけたらとても嬉しいですし、伝えていきたいですね。

備前自動車岡山教習所さんの「伝え方」とは?

交通安全の内容、例えば歩きスマホは危険とか、自転車と並進したら迷惑とか、そんなことは誰でも知っていますよね。でも、知っていることを実行し行動に移しているか?となったら、どうでしょう?やはり実行することこそが大切なのです。そのことを感じてもらうために、講習では次のようにしています。これから事故再現をする、という場面で、見学する皆さんはガヤガヤザワザワと私語が止みません。「静かに!」と言ってもなかなか静かになりません。そこで私は皆さんが静まりかえるまで進行を中断し、じっと待ちます。じっと待って静かになってから事故再現を行います。そして授業の最後にこの出来事を持ち出して言います。「知っていても実行されなければ価値が無い、同じことが今日の授業の中でもありましたね。」と。「今は喋らず静かにしなければいけないって知っていますよね。でも、お喋りがなかなか止みませんでした。知っていることを実行するには、それなりの意識とか精神力が必要です。この意識や精神力は、交通安全だけでなく、皆さんの日常や将来において大切なものになるはずですよ」と、このように交通安全を学校生活と重ね合わせながらお話しさせてもらっています。

岡山の交通事情についてはどうお考えですか?

私は岡山育ちですが、十年近く県外に出ていて、そして帰って来て感じたのですが、マナーは悪いですね。ウィンカーを出さない人はすごく多いと思いますし、岡山の人には追い越しをしない代わりに、後ろからあおるんですよ。事故統計の数字だけだと事故は減っているんですが、感覚としては減っている感じがしませんね。どちらかというと、事故には至らない程度のちょっと危険運転だったり迷惑運転は、むしろ増えているように感じます。岡山は軽四輪が多いな、とも感じますね。公共交通機関が乏しいのも一因とは思うのですが、まるで自転車のように車を使っています。車をまるで自転車のように使うことで、車に乗る時の態度がすごく緩い気持ちになってしまうのかな、と思います。お手軽自転車感覚な人達を増やさない為にも、自転車を乗っている時からきちんとした安全意識を伝えていきたいですね。

河原さんが思うカッコいい運転とは?

よく交通標語で「運転が示すお人柄」と言われますが、本当にその通りだなと思います。運転とは、その人の人柄の表れでしょう。ということは、カッコいい乗り方というのはつまり、カッコいい人のことを言うのだと思います。見た目がカッコいいとかもありますが、風貌ではなく、筋が通っていたり芯がぶれないなど、カッコいい人というのは、そういったところで人としての魅力がきつとあるんだと思います。それが運転にも繋がると思うんですね。人の問題なんだなと感じますね。

では、反対にかっこ悪い運転とは?

かっこ悪い運転とは、かっこ悪い人間のことでしょう。運転で言えば、大人が携帯電話を使いながら運転しているのに、子どもに「携帯しながら自転車に乗ってはダメ」と言っているような。かっこ悪いですよ。そういった、かっこ悪い大人になってはいけなと思います。

『日本を元気に!』をスローガンに活動していますが?

居心地のいい交通社会というのは誰にとっても良いことだと思います。交通事故の有る無しだけでなく、不快な思い、不安な思い、そういったものをひっくるめて不適切事案がなくなれば、いい街になります。そのためには一人一人の意識や態度がすごく大切で、「いい社会だったらいいのにな」と他人任せにするのではなく、その人が自分の身の回りの出来ることから出来ることをする、そういったことで「日本を元気に!」できると思います。

備前自動車岡山教習所で教習指導員や技能検定員をする傍ら、高校や中学校へ出向いて交通安全教室を開催。出張交通安全教室は岡山県内全域に及び、年間30~40校で約1,200名以上の方々に受講いただいています。 河原 勇



出張交通安全についてのお問い合わせはコチラ!!

岡山県公安委員会 備前自動車岡山教習所
岡山市中区清水418
086-272-5161
担当:河原まで

54 JAPAN MOVE UP WEST

EXILE TETSUYA “男を上げる” Monthly Column supported by ANGFA

DANCEの道

DANCE って本当にすごい

青い空、広がる海、少しだけ丸みを帯びた水平線に目を奪われて2日間の天気予報に感謝した。今年のネイチャーダンスキャンプ in DANCE EARTH ビレッジ。僕は今回で3回目の参加です。去年に引き続き、今年も福島の子供たち20人くらいがバスに乗って到着。はじめは少し緊張気味でしたが、ランチのころには、すっかり打ち解けて、ケンチを呼び捨てにしました(笑)。今年も100%元気な子供たちで、とにかく踊ることが大好きなんだなあっていうのが伝わってきます。このキャンプ、メンバーのUSAさんのプロジェクトのDANCE EARTHの活動の一環で、今回で5回目になりますが、自然の中で、子どもたちにDANCEを通じていろいろなことを感じてもらうのが目的です。僕も普段はスタジオにこもってDANCEしているので、でっかい空の下で踊るといのは、ものすごい気分転換になります。眩しいほどの日差しや気温、肌を通り過ぎる風、土の匂い、波の音や鳥の声、人間の持っている五感で感じながら自分を解放するというのは何かをリセットしたようで、とても気持ちいいです。

今回みんなで踊る楽曲として、DANCE EARTH PARTYの『PEACE SUNSHINE』を振り付けました! 音の速さに最初はびっくりしていたみんなも、さすが普段福島のスタジオで踊って

いるだけあって、2日間で踊れるようになっていました。レッスンが終わっても音がかかっている限り踊り続ける子供たちの無邪気さとDANCE熱は見るだけで笑顔になってしまいます。毎回そうですが、最終的には自分がみんなから元気ももらったなあと感じさせてくれるこのキャンプには、これからも参加させていただきたいと思います。

さて、話は変わりますが、先日知り合いに送ってもらったDVDを見てビックリしました! それは大学のDANCEサークルの発表会の映像だったのですが、踊っているみなさんが聴覚障害者だということです。耳が聞こえなくてどうやって音を取ってDANCEをしているんだろうと疑問に思い、すぐに会いに行ってきました。そこは、授業が終わった夕方の筑波技術大学敷地内の武道場。外まで聞こえるくらいのノリノリな音が響いていました。中に入ると鏡の前で十数人の生徒さんが踊っています。端から見たら何の違和感もない普通のDANCEレッスンに見えます。耳が不自由と言っても、普通に会話できる人からほとんど聞こえていない人までさまざまで、サークルのリーダーの合図やスピーカーから聞こえるかすかな音、そして振動をすべての神経を研ぎすませながら踊っているのです。レッスンは普通に音をかけてリズム取りやアイソレーション、振りの

練習と進んでいきます。見ているだけはウズウズするので僕も参加(笑)。最初は生徒さんも僕も緊張してうまくコミュニケーションが取れなかったのですが、皆さんがDANCEを見せてくれたり、僕もEXILEの楽曲を振り付けたりしていたら、やっぱり最後は全員汗だく笑顔でイエーイ!! ってなっていました(笑)。

DANCEって本当にすごいなあ…。国境だろうが障害だろうが超えてくれるんです。そんなことを目の当たりにしたこの経験は僕にいろんなことを感じさせてくれました。うまく言葉ではいえないのですが、何かまた一つ自分のなかで突き動くエネルギーになりました! 筑波技術大学のDANCEサークルの皆さんありがとうございました! また一緒に踊りましょう!!

※ TOKYO HEADLINE vol.629 (10月27日発行) より転載

神奈川県横須賀市出身。19歳からダンスを始め、横須賀、横浜、東京などのクラブイベントで活動。ダンススクール「EXPG」にてインストラクターをしながら、さまざまなアーティストのバックダンサーとして活動。2007年1月、新生J Soul Brothersのメンバーに抜擢され、2009年2月にデビュー。同3月1日からはEXILEのパフォーマーとして多方面で活躍。adidasと共同開発したダンスシューズを発表。絶賛発売中。



岡山から日本を元気に!!

OKAYAMA

MOVE

UP

かけがえのない

未来に夢を。

OKAYAMA MOVE UP とは——

JAPAN MOVE UP 「日本を元気に!」というテーマのもと、
「東京から日本を元気に!」と活動を行うTOKYO MOVE UPと連携し、
2013年4月から「岡山から日本を元気に!」をスローガンに掲げ、
岡山の「人・街・未来」を「社会的活動」と「エンタテインメント」
で元気にするべく活動をスタートしたプロジェクト。

今後もこれまでになかった様々な展開を
「社会的活動」と「エンタテインメント」を融合し、
岡山から日本を元気にしていきます!

OKAYAMA MOVE UP 実行委員会

PHOTO 夢の課外授業スペシャル (野球指導 工藤公康)



活動事例: 夢の課外授業スペシャル (野球指導 工藤公康 & サッカー指導 水内 猛)

JAPAN MOVE UP ラジオ公開収録 (EXILE MATSU・三代目JSB 登坂&ELLY・EXILE TETSUYA)
※写真左から

OKAYAMA MOVE UP実行委員会 加盟企業一覧

(2014年11月11日現在)



総合建設業・一級建築士事務所
河野建設株式会社



special partner



KANKO

岡山トヨペット